

学校評価の結果に関する考察

1 成果と課題について

児童

■ 成果

・「1元気よくあいさつをしている」と答えた割合は、昨年度より高い。自分から進んでは言えないが、元気よく応えられる子もいると思う。子どもたちも教員も元気な声であいさつを交わすことで、温かな心の交流としたい。来校者や保護者・地域の方にも、頭を下げるなど気持ちが伝わる態度も指導していく。

・「18学習用具をわすれず、きちんと持ってきている」の「そう思う」割合は、前年度より15%高い。各家庭の協力のおかげと感謝している。これからも学校と家庭の連携を大事にしていく。

・「22先生は、いじめや仲間はずれのないようにしっかり教えてくれる」の項目は、98%が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えている。授業でも日常生活でも、人権侵害は「させない、ゆるさない」態度で指導を継続する。

・「23地震・津波、火事、不審者に会ったときなどに、どうすればよいか教えてくれる」の項目は、全員が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えている。アンケート実施後の1月21日には、地域連携防災学習も実施している。これからも災害時における自助、共助の力が育つよう様々な学習を継続する。また、学校に不審者が現れたときの避難訓練や不審者に声を掛けられたときの対応訓練も毎年実施している。これらも継続する。

・「24一生懸命にそうじをしている」「25何事にも一生懸命取り組んでいる」と答えた割合も高い。子どもたちの真面目さがわかる。今後もそれぞれの取組の価値を理解させ、できたときには認め、支援をしていく。

・「26自分にはよいところや得意なことがあると思う」と答えた割合は、前年度より高い。子どもたち一人一人に活躍の場を与え、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。

■ 課題

・「3学校での生活は楽しい」「4学校や学級で友達と仲よくしている」「5自分のことをよくわかってくれる友だちがいる」の項目で、少数ではあるが「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」の回答があったことは見逃せない。子どもたち一人一人に目を向け、子どもたちの変化を見逃さないよう細心の注意を払うようにし、仲間づくりに努める。

・「8今、勉強している内容はわかる」「10自分の考えや思ったことなどを発表している」「11難しい問題でもわかるまでねばり強く考えている」「12自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする学習は楽しい」で、そう思っていない回答は昨年同様高めである。特に「8今、勉強している内容はわかる」で「そうは思わない」が11%と高い。子どもたちの自ら学ぶ意欲が高まるような授業の改善をするとともに、理解が難しい児童に対し、個別指導が充実するよう授業展開の工夫をしたり複数教員による指導態勢を整えたりするなど対策が必要。

・「16進んで読書をしている」「17家で勉強を学年×10分以上している」は、十分とは言えない。読書タイムや隙間時間（休み時間や学習課題が早く終わったときなど）を利用して読書や本の紹介をするなどして、読書の習慣化につなげていきたい。

令和6年度 アンケート(児童用)

4: そう思う 3: どちらかといえばそう思う 2: どちらかといえばそう思わない 1: そう思わない

(%)

No.	評 価 項 目	4	3	2	1
1	元気よくあいさつをしている。	74	21	4	1
2	交通安全や学校・学級のきまり・週目標を守っている。	65	31	4	0
3	学校での生活は楽しい。	71	18	8	3
4	学校や学級で友だちと仲よくしている。	76	18	3	3
5	自分のことをよくわかってくれている友だちがいる。	71	24	1	4
6	命の大切さや仲よくすることの大切さについて学習している。	78	17	5	0
7	学校生活は、自分で考え、行動している。	64	33	3	0
8	今、勉強している内容はわかる。	57	29	3	11
9	先生や友だちの話をしっかり聞いている。	67	32	0	1
10	自分の考えや思ったことなどを発表している。	55	30	13	2
11	むずかしい問題でも、わかるまでねばり強く考えている。	54	35	6	5
12	自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする学習は楽しい。	64	26	4	6
13	授業でタブレット端末を使う学習はわかりやすい。	71	21	4	4
14	体を動かすことが好きで、体力がついてきた。	75	17	5	3
15	宿題はわすれず、きちんと出せている。	60	32	2	6
16	進んで読書をしている。	44	32	17	7
17	家で勉強を学年×10分以上している。	60	18	11	11
18	学習用具をわすれず、きちんと持ってきている。	60	29	7	4
19	先生は、授業を工夫してわかりやすく教えてくれている。	84	10	3	3
20	先生は、がんばったことを認めてくれ、ほめてくれる。	74	24	2	0
21	先生は、困ったことや悩んでいることに相談にのってくれる。	72	25	0	3
22	先生は、いじめや仲間はずれのないようにしっかり教えてくれる。	88	10	2	0
23	先生は、地震・津波、火事、不審者に会ったときなどに、どうすればいいか教えてくれる。	86	14	0	0
24	一生懸命にそうじをしている。	75	25	0	0
25	何事にも一生懸命に取り組んでいる。	76	22	1	1
26	自分にはよいところや得意なことがあると思う。	83	14	3	0
27	給食は残さず食べている。	65	21	10	4
28	見学や体験活動からわかったことは役に立つ。	78	20	2	0

保護者

■ 成果

「5お子さんは、思いやりのある子に育ってきている」で、「そう思う」が昨年度より10%高い。児童アンケートからも自己肯定感の高まりや真面目に取り組む姿があり、すばらしいことだと思う。

・「19学級・学校はけがや体調が悪くなったとき等の対応が適切である」「21子どもたちの安全管理に配慮している」は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えている。養護教諭を中心に、きめ細かな対応をしていると思う。子どもたちにとって、保護者にとって、今後も安全・安心な学校を目指す。

・「26学級・学校は、体力・健康づくりを推進している」も、全員から「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の評価を得ている。体操や水泳の郡大会がなくても、放課後の練習期間を設けるなど取り組んだ。県大会への出場者は少なかったが、体操は参加を申し出て出場した。校内持久走大会も、練習の成果を出し全員がカー杯完走した。コツコツと取り組むことが大事であり、継続する。

・「27HP、学校新聞、学級新聞、学級・学校だより等で学校の様子を伝えている」は、評価が高い。HPは、子どもたちの活動の様子や各種たよりを随時更新している。

・「29保護者は、授業参観やPTA活動に積極的に参加している。」の評価も高い。学校教育への関心や子どもを思う気持ちの表れでだと思う。多大なご協力やご支援に感謝している。

■ 課題

・「6お子さんは、授業がよくわかると言っている」「7お子さんは、各学年に応じた基礎学力が身についている」と感じている割合は、昨年度より低下している。また、「25学級・学校は、確かな学力の保障と学習意欲の喚起に努めている」も、前年度よりかなり評価が低い。学校では「学力向上実行プラン」を立てて児童の基礎学力の向上に努めているが、今年度の取組をしっかりと振り返り、児童の実態に合った授業が展開できるようにする。また、児童の課題のところで述べたような対策や研修の充実による教員の指導力向上にも努める。

・「11お子さんは、家庭で勉強を学年×10分以上きちんとしている」の項目で「そう思う」が11%高くなったが、「そうは思わない」も9%高くなった。12の「家庭で読書をしている」も「そうは思わない」が7%高くなった。家庭の状況が影響するところであるが、宿題の工夫など学習の習慣化を図る対策が必要であると考えます。

・「15お子さんは、家庭でゲームやインターネットの使用の約束を守っている」は、「そう思う」の回答が17%と低い。1月17日～19日に「メディアコントロールチャレンジ」を家庭で実施してもらい、メディアの使用について家庭で考えていただいた。評価の上昇を期待する。



令和6年度 学校評価（保護者）アンケート

横瀬小学校 R6年12月

4：そう思う 3：どちらかといえばそう思う 2：どちらかといえばそう思わない 1：そう思わない

○ お子様のこと (％)

No.	評価項目	4	3	2	1
1	お子さんは、元気よくあいさつをしている。	43	43	14	0
2	お子さんは、交通ルールや社会生活のきまりを守っている。	47	47	6	0
3	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしている。	53	38	9	0
4	お子さんは、学校で友達と仲よくすごしている。	60	38	2	0
5	お子さんは、思いやりのある子に育ってきている。	49	47	4	0
6	お子さんは、授業がよくわかると言っている。	36	45	11	8
7	お子さんは、学年に応じた基礎学力が身についている。	36	43	13	8
8	お子さんは、自分の考えや意見を伝える力が身につけてきている。	25	64	9	2
9	お子さんは、年齢に応じた体力が身につけてきている。	45	42	11	2
10	お子さんは、忘れ物をしないように、学習の準備をきちんとしている。	35	38	27	0
11	お子さんは、家庭で、勉強を学年×10分以上きちんとしている。	39	23	25	13
12	お子さんは、家庭で読書をしている。	12	21	29	38
13	お子さんは、家族に学校の話をよくしている。	27	51	15	7
14	お子さんは、家庭で手伝いをしている。	23	38	26	13
15	お子さんは、家庭でゲームやインターネット使用の約束を守っている。	17	47	23	13

○ 学級・学校、保護者のこと (％)

16	学級・学校の教育活動について全体的に満足できる。	40	52	6	2
17	学級・学校は、子ども同士のトラブルや悩みなどに適切な対応をしている。	42	52	6	0
18	学級・学校は、差別やいじめのない仲間づくりに取り組んでいる。	36	62	0	2
19	学級・学校は、けがや体調が悪くなったとき等の対応が適切である。	68	32	0	0
20	学級・学校は、地震・津波などの防災や防犯への対応について適切な指導ができています。	43	55	2	0
21	学級・学校は、子どもたちの安全管理に配慮をしている。	56	44	0	0
22	学級・学校は、子どもたちの学習環境を整えている。	49	47	4	0
23	学級・学校は、思いやりの心を育てるように努めている。	48	50	2	0
24	学級・学校は、体験的な活動を積極的に取り入れるよう努めている。	52	46	2	0
25	学級・学校は、確かな学力の保障と学習意欲の喚起に努めている。	29	63	8	0
26	学級・学校は、体力・健康づくりを推進している。	39	61	0	0
27	学級・学校は、HP、学校新聞、学級・学校だより等で学校の様子を伝えている。	67	31	2	0
28	学級・学校は、家庭との連携がとれている。	39	57	4	0
29	保護者は、授業参観やPTA活動に積極的に参加している。	52	44	4	0

2 来年度に向けての学校改善について

○学力及び学習意欲向上に向けて

・このアンケート結果からも、基礎学力の向上は重要な課題と言える。さらに「自分の考えや思ったことなどを発表している」「難しい問題でもわかるまでねばり強く考えている」「自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする学習は楽しい」の達成率が低いことから、子どもたちが学習する過程の中で、他の人との協働を通じて自分の考えを広げ、知識をお互いに関連づけてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、授業者はこのような機会を意図的に作り、展開する必要がある。

○互いのよさを認め合える仲間づくり

・今年度も、互いのよさを認め合える仲間づくりのために、よい学級にするためのルールをみんなで話し合って実行したり、友だちの温かな行動を紹介する「ありがとうの花」活動（職員室前に掲示）をしたり、鹿背山班（異年齢集団）での集会活動を毎月のように行いみんなで歌ったりと、様々な取り組みをしている。また、毎月生活調査を行い、「学校は楽しいか」「いじめはないか」などアンケート調査で実態把握をしている。もちろん子ども同士でも気が合う、合わないはあるが、嫌な思いをする子がいないよう互いの人権を尊重し、思いやりの心を大切にするようこれからも指導をしていく。また、県下各学校に設置されている「いじめ防止こども委員会」の活動も、計画的に行わなければいけないと考えている。

PTA鹿背山教室においても、昨年度は、「子どもに自信をつけるほめ方」をテーマにグループディスカッションを、今年度は「人権コンサート」を行っている。保護者が中心となって、人権問題研修会を開いてみてもよいのではないかと考える。

○読書活動充実のために

・各学級文庫には、発達段階に応じた本が並び、その利用率は高い。昨年度、図書室西側の本棚を新しくし、環境整備を行った。新しい図書も毎年たくさん購入している。そして、今年度から読み聞かせボランティアによる読み聞かせ会も毎週金曜日に行っている。しかし、2階西の図書室の利用率は低く、家庭読書をする子どもも少ない。魅力ある図書室づくりや、学校や学級での読書週間の取組、子ども同士による読み聞かせ会の開催など、子どもたちが読書をしたくなるような働きかけをしたい。

◇保護者の皆様からのご意見について

・授業参観日は、運動会、学習発表会を除くと休日に年3回行い、多くの保護者の皆様に参加していただけるようPTA総会、心肺蘇生法講習、PTA研修（+ドッジボール大会）を抱き合わせにしています。また児童・家庭の負担が少なくなるよう最初の2回は午前中で放課、3回目は午後開催にしています。参観日の日程や回数等について、ご意見があればPTA運営委員会でいただきたいと思えます。

・図画の画一的な作品が、子どもたち一人一人の個性を枠内に閉じ込めているように感じるというご意見をいただきました。これからも児童の発達段階に応じた指導を行うとともに、人権に配慮し、個性を伸ばし、発揮できる指導に努めます。作品作りの授業には、それぞれの学年に応じた単元のねらい（めあて）や指導の意図（構図の取り方を教えたい、色使いを教えたい、こんな技法を使わせたい、子どもの負担を軽減したいなどたくさんあります）、時間的制約等があり、画一的な作品作りも重要であることをご理解いただき、そのような視点で作品をご覧いただけたら幸いです。

・職員という言葉遣いについてです。友だちの心身を傷つける場合や個人的な理由により大きな迷惑をかける場合など、その行為に対して教員は大きな声で指導したり、時には叱責したりすることがあります。もちろん子どもたちにとってそれが先生の暴言と聞こえることがあり、特に低学年児童にとってはなおさらだと思います。そのような場合であることをご理解いただいた上で、言葉を選び、理由を明らかにした子どもへの指導ができるようにします。さらに人権を無視するような発言があってはならないと認識していますので、今後も計画的にコンプライアンス研修を実施し、学校職員としての自覚をもって行動ができるよう徹底します。

・新聞でもしばしば教員の超過勤務のニュースが取り上げられています。教員の超過勤務を減らすよう県や町、そして学校でも取り組み、本校の超過勤務は以前より減少しています。夜遅くまで電気がついていることもありますが、これからも子どもファーストで、家庭・地域と連携しながら、よりよい学校教育を推進していきます。

・学校では、子どもたちの豊かな成長のために、教科指導の他、様々な体験活動や行事を行っています。それらは、学校ホームページや学校・学級だより、保健・給食だより、鹿背山新聞等でお知らせしており、学校ホームページは今年度130回以上更新しています。ぜひともご覧いただき、一層のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。